

# プレカット ニュース

一般社団法人 全国木造住宅機械プレカット協会

東京都千代田区永田町2丁目4番3号永田町ビル6階

TEL 03 (3580) 3215 FAX 03 (3580) 3226

<http://www.precut-kyokai.com>

## 平成30年度CAD技術者研修開催される

### — 1級～3級及び登録更新コース —

平成30年度のCAD技術者研修が1～3月に開催されました。今年、いずれも東京の木材会館を会場に、1級コースは、平成31年3月6、7日に参加者数18名（うち会員工場からの参加者数10名以下同じ）、2・3級コースは、1月29、30日に参加者数2級65名（33名）、3級6名（3名）及び併願7名（2名）で実施しました。

1級コースでは、受講者には研修当日に持参する事前課題を課すなどの研修形態とし、考査は記述式により3時間10分行い、プレカット工場のCAD部門の責任者に相当する人材を対象としていることから、より高度な講義内容の理解度を確保するため、自らの技術的な知識の確認の他、部下への指導方法等を問う出題もありました。



1級コース研修会場

2・3級コースでは、受講者が研修内容の理解度を自ら認識するため、研修終了後1時間の考査を行いました。各コースとも考査結果が基準点以上の受講者については、申請によりプレカットCAD技術者認定登録が可能になります。

また、CAD技術者研修初年度の平成24年度に受講（2級コースのみ実施）し、登録した者については、今年度末で登録期限の5年をむかえるため、3月18日に東京の日林協会館において登録更新研修を33名（17名）が参加し実施しました。

なお、登録更新の研修機会を広げるために期限が切れる当年度と翌年度に登録更新研修を実施することにしています。新年度以降は、1級から3級までの



2級・3級コース研修会場

の登録更新対象者が多数生じますが、対象者へは事前に意向調査表が送付されますので、その際には登録更新の手続きをお願いします。

さらに、今後、民間の非住宅への波及が高まれば、住宅市場の縮小をプレカット工場は補うことが可能となります。これからも、地域の一般流通材を使用した各種木造建築物生産のために、プレカット加工業の影響力は大きくかつ多様になっていきます。CAD技術者の充実、会員の皆様の工場が地域の中核としてご活躍していただくための重要なポイントですので、これらの研修の成果をご活用されることを期待しております。

今年度も研修実施を予定していますので、早めの応募をお願いいたします。



登録更新研修会場

# 平成31年度事業計画及び収支予算を承認

## — 平成30年度第2回理事会開催 —

当協会は、3月22日(金)に平成30年度第2回理事会を永田町ビル4階大会議室において開催しました。理事会の冒頭、原田会長から、「我が国経済は、雇用・所得環境の改善や株価の安定などを背景に、景気回復基調にあり、個人消費は足踏み状態のやや力強さに欠けている中、企業収益は堅調が持続し、全業種人手不足状態から労働需給は逼迫した状況が続いているようです。

このような状況下、住宅投資は弱い動きが続いており、プレカット加工業の業況に関連が深い新設住宅着工戸数動向をみますと、平成30年は、94万2千戸と前年に比べて-2.3%と2年連続の減少となっており、プレカット加工業の業況は、地域的な差はあるものの、競争の激化等もあり加工単価は横ばいで推移し、さらに、加工資材の入手環境も厳しいものとなるなど、業況の回復にはもう少しといった状況下にあります。

先行きについても、当面、横ばいで推移していくものと見込まれていますが、予定されている消費税増税の影響、海外経済の不確実性等の影響により、景気の先行きには留意する必要があります。

一方、木材利用に関しては、国産材資源の充実を背景に、公共建築物への木材利用の推進など各般の積極的な政策を受け、各地で中大規模木造建築物の大型商業施設や公共施設等の建設が促進されるなど、これらの動きがプレカット加工業においても、新たな需要分野として期待されている。当協会では、このような需要分野の変化に対応するため、プレカット加工業としての関わりを技術面、業務面から支援し、新たな分野への対応を進めていきたい。」旨の挨拶がありました。

議事においては原田会長が議長を務め、まず、「平成31年度事業計画(案)及び平成31年度収支予算(案)」が事務局から提案説明され承認されました。引き続き、「平成30年度事業の遂行状況」について事務局から説明があり、この中では、従来から実施している普及事業、調査事業の他、技術支援事業として「プレカットCAD技術者基準」に基づくプレカットCAD技術者研修(1級～3級及び登録更新)の実施とプレカットCAD技術者認定登録の状況等が説明されました。

なお、今回の理事会で承認された「平成31年度事業計画及び平成31年度収支予算」は、6月10日(月)に開催される第9回定時社員総会(会場:ホテルメルパルクTOKYO 東京都港区芝公園2-5-20)に報告されます。

## 第10回「新たな木材利用」事例発表会開催される

一般社団法人全国木材組合連合会と木材利用推進中央協議会(当協会は構成団体)は、共催で2月12日(火)に東京都江東区新木場の木材会館7階ホールにおいて、第10回「新たな木材利用」事例発表会を開催しました。この発表会には、木材関係者、設計関係者等、100名の参加があり、木造建築の意義や木材の新分野への利用について関心の高さをうかがわせるものになりました。

事例発表の第1部においては、「地域材を使った省エネ性能の高い木造建築物の設計手法」について、有限会社西方設計代表取締役西方 里見氏が、地域の建築物は、社会資本であり、人の健康(温熱・空気質)、建築の健康(耐震・耐久)、環境の健康(持続可能・省エネ)が重要であること、大型木造建築に一般流通地域材製材品を多用することでコストダウンが図れることの前置きがあり、秋田県の「道の駅ふたつ」に、4寸×8寸×長3mのスギ製材で構成したアーチトラスの材料・建築・施工事例の詳細な説明がありました。

また、第2部においては、「木材を使った街づくり」事例とその評価について発表が行われました。まず、東京急行電鉄株式会社鉄道事業本部工務部施設課課長補佐杉山 圭大氏が「東急池上線戸越銀座駅舎の木造化」について紹介しました。次に、茨城県潮来市役所生涯学習課課長補佐吉川 増夫氏が「潮来小学校木造校舎のスタンダードへ」について紹介しました。この他、(国研)森林研究・整備機構森林総合研究所木材改質研究領域長大村 和香子氏が、「外構分野への国産材活用事例」についての事例紹介を行いました。

これらの事例発表を通して、木のある生活が心と体の安らぎを与え、木の学びや木のみちづくりがさらに広がっていくことが期待されています。

# 平成30年 協会会員工場基礎調査結果について (第1回)

## — プレカット加工用資材の材種別使用状況 —

(平成30年12月末現在)

平成30年に協会会員工場で使用した資材について、国産材、輸入材別にグリーン材、KD材、集成材、合板、その他の使用割合について集計、分析を行いました。(調査工場数：40工場)

### 国産材 (42.6%)

表中の( )は昨年の数値

使用割合(%)	グリーン材	KD材	集成材	合板	その他
0～10	25	6	14	15	33
11～20	1	6	7	6	0
21～30	6	6	3	4	0
31～40	2	3	5	4	1
41～50	0	5	0	1	0
51～60	1	4	0	3	0
61～70	0	1	3	1	0
71～80	0	1	2	1	0
81～90	0	2	1	0	0
91～100	0	1	0	0	0
平均使用率(%)	11.6	37.6	25.2	22.9	2.7
中央値(%)	5	35	20	15	0
(平均使用率(%))	(8.0)	(41.2)	(26.5)	(23.1)	(1.2)
中央値(%)	(3)	(40)	(20)	(20)	(0)

### 輸入材 (57.4%)

使用割合(%)	グリーン材	KD材	集成材	合板	その他
0～10	32	3	3	28	34
11～20	1	2	4	4	0
21～30	1	9	7	2	1
31～40	1	9	7	0	0
41～50	0	1	3	0	0
51～60	0	5	2	0	0
61～70	0	1	2	0	0
71～80	0	2	5	1	0
81～90	0	2	1	0	0
91～100	0	1	1	0	0
平均使用率(%)	5.2	42.4	44.2	6.7	1.5
中央値(%)	1	40	40	0	0
(平均使用率(%))	(5.0)	(39.4)	(48.6)	(5.7)	(1.3)
中央値(%)	(1)	(40)	(50)	(0)	(0)

注) 調査工場数は40であるが、加工実績なしが3工場、国産材のみが1工場あるため、各項目別集計数は、調査工場数と一致しない。

### ◇簡単なコメント

- 1 国産材においては、これまで平均使用率の長期的なトレンドとして、グリーン材の使用率の低下や集成材等の増加が続いており、今回の調査した結果では、KD材38%、集成材25%、合板23%、グリーン材12%という結果になった。平均使用率を前回と比較すると、グリーン材の割合は4ポイント上昇したが、一昨年よりは低い数値となっている。KD材、集成材、合板の割合が低下している。
- 2 また、輸入材においては、集成材等を細分化した結果、集成材が44%、KD材が42%、合板7%、グリーン材5%、その他2%という結果になった。前回の調査結果よりKD材・合板の使用率が上昇し、グリーン材は変わらず、集成材は低下している。

# プレカッタ業況調査 (平成31年2月期)

一般社団法人全国木造住宅機械プレカッタ協会調べ (回答率: 52 %)

設 問	回答比率 (%)			DI	前回DI
	(1)	(2)	(3)		
1-1 今月の受注額は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	9	44	47	-38	+39
1-2 3ヵ月後の受注額をどう予測しますか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	50	41	9	+41	-43
2-1 貴社の坪当たり平均総加工単価はいくらですか。	答: 6,000円(対前回調査±0円)				
3-1 今月の製品加工単価は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	0	88	12	-12	±0
3-2 3ヵ月後の製品加工単価をどう予想しますか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	6	91	3	+3	-3
4-1 今月の資材(製品)入手状況は如何ですか。 (1) 容易 (2) 変わらず (3) 困難	12	85	3	+9	-12
4-2 3ヵ月後の資材(製品)入手状況をどう予測しますか。 (1) 容易 (2) 変わらず (3) 困難	12	79	9	+3	-6
5-1 今月の収益は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	3	53	44	-41	+18
5-2 3ヵ月後の収益をどう予測しますか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	44	53	3	+41	-39

\*DI=(1)の%- (3)の%、+の数値が大きいほど好況、-の数値が大きいほど不況。

\*前回調査: 平成30年11月

## ◇簡単なコメント

2月の各設問のDIをみると、受注額については、悪化の会員が好転をかなり上回り、逆に今後については好転の予想が大きく上回っている。収益についても、現状は悪化が好転を上回っており、業況は低調の状況にある。今後は逆に好転の予想が大宗を占めている。これらの状況は、前回の予想どおりの結果となっている。加工単価については悪化が少し見られるものの、3ヵ月後についてもほぼ変動がないと予想している。また、資材の入手状況は、変わらずが大半である中、少数であるが現状、先行きともに容易が困難を上回っている予想となっている。今後は、予想どおり受注額と収益が好調を回復出来ることを期待したい。

- 1 受注額のDIは-38で前回調査時(平成30年11月期)に比べて、悪化してきている現状にあるようで、新設住宅着工戸数の動向等を反映しているものと思われる。また、3ヶ月後の予測のDIは+41で大きく好転の予想が上回っている。今後は、予想どおりの業況の改善と活性化を期待したい。
- 2 3ヵ月前と比較した製品加工単価のDIは-12と少数の会員が悪化してきているが実際の単価は変わらずの状況となっている。3ヵ月後の製品加工単価のDIは+3であるが、加工単価の変動はそれほどない現状にあるといえる。
- 3 資材入手状況のDIは+9で容易となってきている。3ヵ月後の予測のDIは+3であり、容易が困難の予想を上回っている。
- 4 3ヵ月前と比べた今月の収益のDIは-41と受注額同様かなり悪化してきている。前回調査時の3ヶ月後の収益予測が-39であった結果が数字に反映されている。さらに、3ヶ月後の収益予測は+41と、現状と正反対の先行き見通しとなっている。